

## 金曜ピラ

発行2022年(432号)

3月18日

次回は4/4

# もう原発やめよう!

## スペースたんぽぽ

### 学習会・デモの日程



## たんぽぽ舎

TEL 03-3238-9035

FAX 03-3238-0797

Mail: nonukes@tanpoposya.net

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町

3-1-1 高橋セーフビル1F

原発廃止ひと筋33年・たんぽぽ舎は皆さんの会費とカンパで運営されています。会員になれる方歓迎!  
(たんぽぽ舎の会費は6ヶ月6000円、月1回ニュース発送等) 郵便振込 00180-1-403856(加入者名:たんぽぽ舎)

## 4月6日(水)2つの行動にご参加下さい

東電福島第一原発事故から11年

### ★第45回日本原電本店抗議行動 東海第二原発うごかすな!

時間 17:00~17:45 場所:日本原電本店前(JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分)

### ★東電は福島第一原発事故の責任をとれ!「第103回東電本店合同抗議」

時間 18:30~19:30 場所:東京電力本店前

次回は5月11日(水)17時より日本原電本店抗議行動、18時30分より東電本店合同抗議

## 4月15日(金)第11回「原発いらない金曜行動」

首相官邸前 18:30より19:45 多くのご参加を!

「フクシマは終わっていない!」 「放射能汚染水を海に流すな!」

「老朽原発再稼働するな!」 「東海第二原発うごかすな!」...

「毎月第3金曜」・首相官邸前で開催。主催:「原発いらない金曜行動」実行委員会

5月(第12回)は20日(金)。6月(第13回)は17日(金)です。

## 2022年3・4月の学習会・行動案内 参加歓迎!

(学習会の会場は「スペースたんぽぽ」)

3/21 (月・休)	集会 デモ	<b>ウクライナに平和を! 原発に手を出すな! 市民アクション</b> 時間: 12時30分集合 1時45分 デモ出発 場所: 代々木公園B地区 呼びかけ「さようなら原発」一千万署名/戦争させない1000人委員会
3/26 (土)	学習会 講座 No719	<b>「福島原発事故の技術的教訓」</b> 講師: 後藤政志さん 講師のお話は14時30分からです 新チョボゼミ 13時30分より17時 参加費: 800円 <u>予約必要です</u>
3/29 (金)	学習会 講座 No749	<b>「ウクライナ情勢」</b> <u>予約締め切りました</u> 講師: 孫崎 享(まごさきうける)さん (東アジア共同研究所理事・所長) 新チョボゼミ 18時より21時 参加費: 800円

講座のご予約は電話 03-3238-9035 か メール tanpopo3238@gmail.com でご氏名と電話番号をお伝え下さい。受付番号をお知らせ致します。

# 2022年3月・4月の学習会・行動案内 参加歓迎！

(学習会の会場は「スペースたんぼぼ」)

3/31 (木)	学習会 講座 No744	「韓国大統領選挙後の日韓関係」 お話:青柳純一さん(翻訳家・金起林記念会共同代表) 19時より21時 参加費:800円 <u>予約必要です</u>
4/4 (月)	学習会 講座 No742	「米本土防衛の盾にされる日本列島」米中対立・台湾有事の背景を探る お話:瀨瀬(こうけつ)厚さん(山口大学特任教授) 19時より21時 参加費:800円 <u>予約必要です</u>
4/6 (水)	抗議 行動	とめよう! 東海第二原発 20年運転延長・再稼働許すな! <b>第45回日本原電本店抗議行動</b> 時間 17:00~17:45 場所:日本原電本店前(JR秋葉原駅昭和通り出口より徒歩7分) 主催:とめよう! 東海第二原発首都圏連絡会/協力:再稼働阻止全国ネットワーク
4/6 (水)	抗議 行動	<b>東電は原発事故の責任をとれ「第103回東電本店合同抗議」</b> 時間 18:30~19:30 場所:東京電力本店前 よびかけ:経産省前テントひろば/たんぼぼ舎 賛同:東電株主代表訴訟など141団体
4/9 (土)	学習会 講座 No746	「国家と企業から個人情報を守るために」 連続講座第4回 お話:小倉利丸さん(盗聴法に反対する市民連絡会メンバー) 14時より17時 参加費:800円 <u>予約必要です</u>
4/11 (月)	学習会 講座 No726	「原爆と原発の戦後社会史」-運動史から振り返る 第2回「武谷三男の原爆賛美論文と『科学者の社会的責任』をめぐって」 ~< '82 > 論争① 11回連続講座(毎月第2月曜) お話:天野恵一さん(とめよう!東海第二原発首都圏連絡会世話人) 14時より16時30分 参加費:800円 <u>予約必要です</u> ※3回目は5月9日(月)、4回目は6月13日(月)同じ時間です。
4/15 (金)	抗議 行動	<b>第11回「原発いらない金曜行動」(首相官邸前) 18:30より19:45</b> 福島第一原発の放射能汚染水を海へ流すな! 老朽原発再稼働するな! 東海第二原発をうごかすな! 主催:「原発いらない金曜行動」実行委員会
4/16 (土)	集会 デモ	「さようなら原発首都圏集会」 福島第一原発事故から11年 時間:13時30分集合 14時45分 デモ出発 場所:亀戸中央公園 呼びかけ:「さようなら原発」一千万署名/戦争させない1000人委員会
4/27 (水)	学習会 講座 No745	「生命操作時代の科学・技術、社会」 講師:上林茂暢さん 講師のお話は19時からです 新テヨボゼミ 18時より21時 参加費:800円 <u>予約必要です</u>



# ロシアの侵攻で放射能汚染の危機

## 戦闘地域に15基の原子炉

山崎久隆（たんぼぼ舎共同代表）

### ◎原発に侵攻したロシア軍

2月24日からロシアのウクライナ侵攻が続いている。その結果、ウクライナの原発は武力衝突の最前線に位置することになった。

世界は本格的な無制限の通常戦争が、原子炉を破壊し

破局的な事態を引き起こし、これまでにないほどの原子力緊急事態を引き起こすリスクに直面した。これをを過小評価してはならない。この脅威は、いま現実にかけていることだ。

### ◎ウクライナで原発が8基稼働中

ウクライナの電力は原発に54%も依存している。

国内には4カ所の発電所に15基の原発がある。また、チェルノブイリ原発の破壊された建屋やデブリも管理している。

大規模な戦闘では、ウクライナの原発すべてが危険にさらされる。また、チェルノブイリ原発事故により汚染された地域の森林や土壌が、戦闘行為によりかき乱され、降り積もっている放射性物質が再拡散する。



### ◎チェルノブイリ原発で一時空間線量が突出

実際にチェルノブイリ原発周辺の空間線量率が、侵攻前の毎時約8マイクロシーベルト（これでも東京の約100倍）から一時、実に毎時93000マイクロシーベルトに上昇した。2月25日のことだ。年換算で800ミリシーベルトを超える線量だ。

その後、測定データがインターネット上で見られなく

なり、3月1日に復旧した時には毎時8マイクロシーベルト（年換算で約70ミリシーベルト）に戻っていた。この間の推移は、いまも分からない。

実際に何が起きているのかは、戦場になってしまった現在はわからない。チェルノブイリ原発に呼応するようにキエフの線量もずっと上がり続けていた。

### ◎原発を軍事戦略に使う愚

これまで、国際社会においては、紛争地帯で原子力施設が武力攻撃を受けたことは何度もある。しかしその情報は極めて乏しいことを認識しなければならない。

最初に襲われたのは、イラクの原発で、イスラエルにより爆撃され破壊された。運転前だったため核燃料は入っておらず、放射能汚染は免れた。その前にイランイラ

ク戦争において原子力施設が攻撃されたとされる。

さらに、湾岸戦争とイラク攻撃でイラクの原子力施設は壊滅的な被害を受けた。攻撃したのは米英軍。

その後、シリアの原子力施設が攻撃されるなど、「例外」ではなくなってしまった。

これまでに世界が経験した原発の重大事故は、チェル

ノブイリ原発事故と福島第一原発事故の2件。ロシアの侵攻とウクライナ全土での通常戦争の継続により、国際原子力機関による「レベル7」の事故が複数の原発、原子炉で同時多発的に発生する可能性がある。

このような緊急事態の発生で、大規模な人的被害を引き起こし、ウクライナ又は周辺諸国の土地の大半を長期間にわたり居住不可能にする可能性がある。

ウクライナでの原発の健全性は戦略的な問題である。NATO加盟国であれ非加盟国であれ、極めて重要である。

戦略目的達成のために重大な放射線災害を引き起こすことなど、容認できるはずもない。それは、いままさしく出現しつつある核の大惨事を意図的に激化させたり、軽減措置を妨げたり、まして原子炉を意図的に熔融させて欧州の広範囲を汚染させたりすることなどは、単に爆弾を使わない核戦争である。

ザポリージャ原発は特に危険だ。これは欧州で2番目

## ◎事故が起きたら緊急時対応は不可能

実行される可能性が低いとしても、直接的な攻撃は、原子炉格納容器に深刻な損傷を引き起こす恐れがある。また、発電所防衛隊との戦闘は人員を殺傷し、指揮統制システムや監視センサー、重要な原子炉冷却施設を破壊するだろう。

また、運転中の発電所としては原子炉だけが脅威ではない。使用済核燃料は脆弱なプールに置かれ、例えばザポリージャ原発では167基の乾式貯蔵容器に使用済燃料集合体が入れている。冷却には電源が必要で、非常用ディーゼル発電機と外部電源が喪失すれば過酷事故を避けられないことは福島第一原発事故で実証されている。

また、戦争中に原子炉の運転に異常が生じて、緊急

## ◎戦時下に「原発を守る」のは困難

ロシア軍は、故意に原発を攻撃しようとはしないだろう。そんなことをしたら自ら死を招く。また、大量の放射性物質の拡散になれば、ウクライナだけではなくロシアやベラルーシを含む周辺諸国に甚大な汚染をもたらす。しかし意図せずとも戦闘や電源喪失などで破壊されることは、かなり高い確率であり得る。

日本では、福井県警の警備隊のような組織を各地の原発に展開できないか、などといった無茶苦茶な話が国会など

に大きな原発で、既にロシアが実効支配している。ロシア軍の侵攻が始まった直後に武力制圧してしまった。

6基のVVER-1000加圧水型軽水炉は旧ソ連製で、チェルノブイリ原発よりは堅固だとされるが、戦闘に絶えられる設計などしていない。

この発電所はウクライナの総電力の約4分の1が供給可能だから、電力の重要性を考えると、発電所の管理を奪ったロシア軍は発電所を停止することで電力の供給を停止させることも出来る。ウクライナのエネルギーに対する切迫した需要は戦略目標になる最大の理由だ。

このほかにも3ヶ所ある原発は、それが理由で制圧目標になっているだろう。直接的な戦闘行為以外では、サイバーやその他、ロシアの「グレーゾーン」戦略により戦闘部隊が原発ゲートに到着する前でさえ、発電所を管理不能にする可能性がある。

時対応は不可能だ。

原子炉の管理に必要な支援体制は、武力紛争時には崩壊しており、発電所の防衛部隊との交戦、運転員も退避せざるを得ず、事故が発生すれば緩和策も実行不可能になる。

ではロシア軍が、訓練を受けた原子炉操作員を動員し、占領した発電所に派遣するなど、原子炉危機管理チームを編成する可能性はあるのだろうか。これも実態としては困難だ。

さらにチェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の後で、被害を低減、収束するために活動を行った何万人、何十万人もの労働者は、紛争地帯では動員できない。

で議論されているが、いま起きているのは戦争だ。ザポリージャ原発の警備隊はどうなってしまったか。武装警察で原発を守るなど、不可能である。

原発を廃炉にし、使用済燃料をプールから乾式貯蔵に入れることが最も安全だろう。

もちろん、外交により戦争が起きないように、不断の努力をすることが最も大事な。